

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100377		
法人名	有限会社 エーティ		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	静岡県富士宮市大中里1164-1		
自己評価作成日	平成22年3月5日	評価結果市町村受理日	平成22年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭には小さいながら菜園があり、耕すところから収穫までの一連の作業を、利用者様と職員が近隣の方に教えていただきながら一緒に行っています。育てたり、収穫した作物を調理し食べることにより、季節を感じています。春夏秋冬、それぞれにイベントを企画し、ご家族の方にも楽しんでいただけるようにしています。また、ホームでは、犬とウサギを飼い、職員と一緒に餌をあげたり、ボール投げをして遊ぶことで、利用者様の癒しとなっています。ほほえみでは、誰もが個々の生活スタイルを持ち、その人らしく過ごすことを、支援しています。のんびり、穏やかに、笑顔があふれる家、そんなホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から6年、若い世代の職員が利用者の介護に明るく勤しんでいる姿に元気をもらった訪問であった。殆ど離職がなく勤務年数の長い馴染みの職員が9名の利用者の暮らしを阿吽の呼吸で支えている。明るさと地域交流は開設以来のホームの特徴であるが、加えて個々の支援の充実を特筆したい。利用者の朗読や花作りなど得意なことを披露する場面作りや大好きな温泉入浴への同行、地域の「寄り合い処」への参加等利用者の意向を探っては実践し、持てる力を引き出して楽しみに繋げている。職員の子供が学校帰りに立ち寄って利用者と将棋やオセロで対戦する姿も自然体である。利用者に客人として気遣って頂いた一日であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『私たちはひまわりのような笑顔で自由な明るい生活が送れるよう支援します』を理念とし、管理者、職員一同取り組んでいる。	入職時や折々のミーティングで笑顔を忘れないことを話し合っており、その意識は職員に良く浸透している。利用者が過ごすリビングでは理念どおり利用者・職員の笑顔や話し声が溢れていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所の際、地域の方に集まっていたき、理念や取り組みをお伝えし、ご理解いただいている。また地域の行事にも参加したり、近隣を散歩することにより交流を深めている。	代表宅に隣接しており地域とのパイプは太く、開所6年を経て、祭りや防災訓練等を通じ交流が定着している。ホームのバーベキュー大会や民謡ボランティアの訪問には地域の方々にも声をかけて共に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者がキャラバンメイトである為、市からの要請により、サポーター講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施し外部の方と、意見や要望などを交換し、支援に活かしている。	運営推進会議では当該期間のホームの状況や今後の予定を報告しており、家族や地域委員から意見や地域情報を得ている。地域委員が消防署に勤務していたことから防災や広報に関し貴重なアドバイスや協力を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所として行き来するする機会はないが、推進会議にてお伝えしている。	市の福祉展へ参加している。市民からの利用希望の相談は地域包括支援センターへ連絡して受け入れ先の検討等地域ケアサービスの向上に共に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行っていないが、命の危険にさらされ、守るための代替がない場合のみ、事前にご家族に現状を説明し、理解・納得いただいたうえで、同意書に署名・捺印していただいてから実施する取り決めに従っている。	職員は身体拘束をしないケアを理解し努めているが、事故防止のため家族の要望もあり、一時的に実施する場合もある。やむを得ない措置であるが職員は常に話し合い他の方法を模索している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度ミーティングで、職員の対応や対処についてお互いに振り返り、話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中にも、成年後見制度を活用されている方がいらっしゃるの、職員にも浸透している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族の不安や、疑問点を聞き、十分な説明と話し合いをし、納得していただいた上で契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から、意見や要望を聞き取り、それを職員で共有し反映している。ご家族については、面会時に聞くことを心がけている。また、玄関に意見箱も設置している。	契約時に苦情申立て先の案内や意見箱の常設を説明し、折々に利用者・家族の意見を聞き取って反映すべく努めている。入居後の利用者の状況から家族の満足度も高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際に、意見や提案をする時間を設けている。また、提案ノートを作り、ミーティングで取り上げてほしい事を職員が書き込めるようにしている。	運営に関する職員意見は提案ノートの活用やミーティングを経て改善につなげている。積極的な職員の研修参加により資格取得にも前向きである。訪問日当日、勤務者全員の職員ヒアリングとなったことに代表の配慮が感じられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の性格・適正・感性を知り、成功例にはねぎらいの言葉を掛けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量を把握し、研修の参加を促している。またミーティング時に、職員の看護師が講習を開いて、スキルアップを心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で行う勉強会、運動会、新年会、部会など、交流する機会があるため、すすんで参加し、情報交換をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とたくさん話すことにより、日々の会話の中から聞き取るように努めているが、入居を理解できない方もいるので、思うように聞きとれないこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談の際に、ご家族の意向をじっくり聞き、できる限りその意向に添えるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム対象外の場合、担当窓口と相談し、他のサービスの検討を依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるため、常に尊敬する気持ちを持ち、一緒に作業する中では、学ばせていただく姿勢で過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に、意向や意見を聞き、その希望に添えるよう職員が介助するという関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際、自宅に立ち寄り、可能な場合、近隣の方とお話し関係を保てるようにしている。また、馴染みの方には、いつでもご面会に来ていただけるようお伝えしている。	馴染みの床屋を利用したり、外出時に自宅に立ち寄るなど利用者の関係継続を支援している。家族が利用者と面会した時に、時間帯によっては食事や宿泊など家族の希望に添って支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つの作業を一人でやるのではなく、職員を交えて数人でやることにより、みんなで談笑し、信頼関係を築いている。お互いの存在を認識することで、誘い合ったり、支えあったりする姿が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了は、入院後転院、死亡のケースです。葬儀にはホームとして代表が出席している。ホーム側としては、ご家族の必要に応じて相談にのる体制でいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から聞き取るように、努めている。会話から聞きとれない方や自己決定が出来ない方は、生活暦やご家族の意向を聞き、全職員で把握するようにしている。	職員は利用者に対する自身と他職員の受け止め方の違いからも理解を掘り下げて、本人本位の暮らしの支援に努めている。またマンツーマンでじっくり話せる夜勤は利用者の思いの把握に大切な時間と話す職員の声もあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を導入し、本人や家族から聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記入することにより、全職員情報を共有し、把握している。介護記録には必ず目を通すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の気づきは随時報告し、ミーティングで話し合いをもち、その情報を全職員で共有している。また家族が来所した際に現状をお伝えし、意向をお伝えしている。	日々の気付きは記録し情報を共有し、毎月のミーティングでモニタリングやリハビリを含めた目標等について話し合い介護計画に反映している。問題がある場合は家族に意向を確認しお試し期間を設けその結果を見て同意をもらっている。	職員間の話し合いにより利用者個々の現状に適切なケアが実践されているので、土台となる介護計画の一層の充実が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に毎日の気づきを記入し、特に重要で伝えなくてはいけないことは、記録と申し送り張りに二重に記入している。それにより、職員への情報の浸透をはかっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ本人や、家族の意向を伺い、それに添えるように随時話し合いや、対応をしている。既存のサービスだけにとらわれず、その時々ニーズに合わせた対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ミーティングの際、全職員で日常の気づきや情報を随時話し合い、共有している。家族には来所時、現状をお伝えし意向を伺うようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の月に2回の往診があるため、利用者の皆さんには、そこで医療を受けていただいている。しかしご家族・ご本人が、馴染みの医療機関での受診を希望される場合は、そちらを受けていただいている。	殆どの利用者がかかりつけ医をホームの協力医としており、紹介状にて正確な医療情報が提供されて適切な医療を受けている。月2回の定期往診の他、必要に応じ家族と協力して外来受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しているため、健康管理は主に看護師が行っている。その上での気づきや異変は随時職員に伝えられ、適切な対応を話し合っている。また24時間オンコールにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の協力により迅速で、安心できる対応ができています。その際には医療機関と情報の共有をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期ケアの説明書式を作成、説明し、ご家族の意向を伺っている。	ホームで対応できること、出来ないことについて説明し家族の意向を確認している。既に自然な形で看取りの経験もあり、職員には利用者がホームで終末期を迎えることの精神的な受け入れも出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全ての職員が把握している。ミーティング時に看護師が講習を開き、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回消防署協力のもと、避難訓練を行っている。地域の避難訓練にも参加している。	グループホーム火災の報道後に全員参加で具体的な想定のもとに避難訓練を行った。また火を出さないためのソケットの埃取りなど行っている。有事には近所の会社に救援をお願いしている。	防災訓練は日中留守の近隣住民が参加しやすいように休日実施等で協力してもらい、繰り返しの避難訓練実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩ということを忘れず、その方の生活暦や人格を尊重した言葉掛けや対応を心がけている。	職員の離職がないため利用者との関わりも深く信頼関係も築かれており、利用者の今を楽しく大切に過ごそうとの前向きな姿勢が確認できた。管理者はプライバシー遵守について日ごろから指導しており書類の名前を伏せる取り組みも見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様によっては、思いを表現することが困難な方や、遠慮がちな方もいらっしゃるため、個々に合わせた説明をし、出来るだけ利用者様に決めていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のため、全て希望に添えるとは言えないが、できる限り意向や希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの美容室を利用している方や、自分でお化粧をする方などいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で利用者様、職員、近隣の方々と一緒に野菜を作り、収穫し調理する。また、行事食を作り季節を感じ楽しんでいる。	利用者は、豆の筋取りや食材の刻み、盛り付け等職員と共にっており、いなり寿司や恵方巻作りには特に腕をふるっている。野菜を多用した家庭的な献立であり、家族が訪問した時は一緒にテーブルを囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食後チェックし、定時に水分補給の時間を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしチェック表に記入している。個人の力量に合わせた口腔ケアを行い、また夜間は義歯のつけ置きを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄をチェック表に記入することにより、全職員が個々の排泄パターンを把握し、定時、随時誘い、介助を行っている。出来るだけパット・リハパンの使用を減らし、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	排せつパターンの把握により利用者個々に合わせた促し誘導でトイレでの排せつを支援しており、昼間のおむつ使用は無い。排便サイクルは看護師職員が注意して観察し、快便への習慣作りにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入している。また、食事には野菜や繊維質のものをを用いることで、便秘の予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自己決定が出来る方には、言葉をかけをし、本人の希望に添えるようにしている。その他の方はご家族の意向、体調をふまえて行っている。拒否が見られる時は無理強いはしない。	基本的に毎日の入浴に対応しているが本人の意向を尊重している。風呂好きな利用者は希望により職員同行で日帰り温泉入浴も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんど方が、日中リビングで過ごされているが、休息のため居室で過ごされる方もいる。その日の個々の状態を見て言葉をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに最新の薬事情報を添付し、理解に努めている。また薬によっては、服薬する前に血圧を測ったり、頓服の場合は記録に記入し、全職員が個々を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時出来ることをやっていただき、その際には感謝の気持ちを伝えている。それにより、自分の存在意味を確認できている方もいる。利用者様同士でゲームをされる事もある。個々の生活歴や好みを会話から聞き取り、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	嗜好品の買い物や、散歩など、個別の状態に合わせて、行っている。地域で行っている『よりあい処』にも、本人の希望を聞き参加している。	日常的には園芸作業や散歩など天気を見ながら外気に触れる機会を作っている。買い物や散髪など個別に対応し、季節ごとに周辺ドライブやバス旅行も楽しんでいる。また墓参等家族と連携して出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、家族との相談の上、利用者様が所持管理している。またこちらで預かって管理しているかもある。金銭に変化があった際には必ず職員が出納帳に記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在手紙については、自ら書かれる方がいないが、電話については取り次ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を作り、常に清潔な空間作りを心がけている。リビングには、その季節の手作りの壁画やオーナメント、お花を飾り季節を感じられるようにしている。	玄関には利用者の植えた花が咲き、室内には吊るし雛や職員手作りの雛人形が飾られて、ペットの犬が利用者の間を行き交って和ませている。浴室や洗面台・キッチンなど清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、狭いながらもテーブル席、ソファー、畳と異なった空間があり、利用者様の好きな所に座っていただいている。その際にはお互い誘い合う姿も見られ、雑談・読書・手作業と、思い思いの時間を過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、家で使い慣れたものを、持込んでいただくのはもちろんのこと、生活していく上で必要となっていく物は、家族と相談し、追加している。	家族と協力して居心地の良い居室作りを支援しており、筆筒やテレビなどが持ち込まれていた。また愛用の針箱や古典の書籍等利用者の馴染んだ品々も見られその人らしさが表れた居室作りがされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すり・エレベーターを設置している。これを利用することによって安全かつ出来るだけ自立した生活を送っていただけるよう配慮している。		